

吉田多麻希 Tamaki Yoshida

野生生物や自然を、人間の有り様を映し出す「鏡」として捉える。創作の主眼は、他生物との関わりの中に現れる人間の生や思考、無意識の行動様式を観察することにある。

ロードキルや土壌に刻まれた記憶は、単なる自然界の事象ではなく、現代社会の構造や人間のあり方を問い直すための断片である。コンセプトに応じて古典からデジタルまで多様な技法を選択し、物質的なプロセスを通して、日常に潜み、見過ごされがちな微細な繋がりを可視化することで、人と自然の間に「新たな均衡」を見出す視覚的な物語を追求している。

2018年の活動開始以降、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 メインプログラム、アルル国際写真祭 アソシエイトプログラム等、国内外で発表を重ねる。